



静岡県立御殿場南高校 進路バリエーション

2年生 保護者対象☆進路講演会!

2月5日(木)、2年生の生徒・保護者を対象とした進路講演会が行われました。登壇した本校の進路課長から大学の種類、入試の仕組み、3年生になってからのスケジュールについて説明がありました。今年は特に入試にかかる費用についての内容が多く、入学金や授業料だけでなく、通学費用や下宿費用の面から、「通いの私立大」と「下宿の国公立大」の比較が示されたので、生徒以上に、保護者の方々が大変熱心に聴いて下さっていたのが印象深かったです。留学や大学院進学、そして奨学金の話も時間をとって説明がありました。

どこの大学を選択するかは、その後の人生も左右する大きなイベントです。やりたい分野の学問について専門の先生はどのくらいいる? 研究室の規模は? 施設は? 学生の雰囲気は? 部活やサークルは盛ん? ボランティアもできそう? 大学を選ぶ時の様々な観点が提示されたので、自分が何を基準に大学を選ぶのか、軸を持って進路選択ができると思います。何か質問や困り事があれば、いつでも御南の進路室を頼って下さいね。一緒に夢を叶えましょう。



河合塾が解説！

共通テスト 分析会



2月14日（土）、静岡市で開催された河合塾の有名講師が解説を行う共通テストの分析会に本校の教員7人が参加しました。分析会に先立って行われた全体会では河合塾が行っている共通テストリサーチのデータを元に令和8年度の志望動向が伝えられました。概要は以下になります。（志願者数等は河合塾の資料から引用した確定値）

- ・ 大学志願者数は前年並みで変化なし、共通テスト受験者数は昨年から微増（既卒生がやや多い）
- ・ 共通テストの平均得点率は約60%（50%程度が目安でしたが今後もこうした平均点になる予想）
- ・ 受験生は一度目標を下げると戻さない傾向があるので共通テストの平均点が下がった年でもリサーチでは第一志望を貫いて、その大学名を書くことが大切
- ・ 文系：経済人気は続く見込み、ただし文系生徒は大学名にこだわる傾向があるので比較的倍率の低い国際系統や、社会部系統にシフトしがちなため、倍率の低い学部も注意
- ・ 理系：理学人気が続く見込み、女子も理学系への出願が増えているため、看護・栄養など元々女子に人気があった分野の人気にかげりが見られる
- ・ 大阪公立大学は、阪大・神大志望者がランクを下げ、滋賀県立大・兵庫県立大志望者がランクを上げて受験する傾向があるので受験者が集中しがちなため注意
- ・ 難関国立大は受験番号が若い受験生の合格率が高い傾向あり（早めに出願先を決めて2次対策）
- ・ 今年は共通テストの平均点が低かったため、名大・名工大などの志願者が静岡大にランクをさげて出願している傾向があるので、静岡大受験者はA・B判定でも油断なく2次対策を行うべし
- ・ 静岡大ー前期の志願者数が数年ぶりに増加（教育学部・工学部の志願者が増加）
- ・ 静岡大ー教育の教育心理が3.8倍、社会科が3.6倍と人気集中
- ・ 静岡大ーグローバル共創は増加基調が見られる
- ・ 静岡大ー情報の行動情報が3.4倍と人気（去年は1.6倍）
- ・ 静岡県立大ー前期、静岡文化芸術大ー前期は減少
- ・ 静岡県立大ー葉は安全志向の受験生が流入、ボーダーが下がる（隔年減少が崩れ前年比129%）
- ・ 静岡県立大ー看護は推薦枠を15名増やして一般入試の募集定員を減らしたにも関わらず志願者増加
- ・ 浜松医科大ー看護は志願者数84名（倍率2.1倍）で去年の112名から減少

〔総評〕



解説

地歴公民科 大谷隆 教諭

昨年に引き続き、歴史総合が25点、日本史探究が75点という配点

歴史総合パートについて、昨年は日本史知識だけでは解けない問題が2問あり、イギリスの穀物法やプラハの春、カストロに、心やられた受験生もいたと思うが、今年度は、そうした難問は、ほぼ皆無。

チェルノブイリがソ連であったことなどを理解しておけば、日本史選択者であっても解けない問題はなし。(問題番号1の三角貿易もコロンブスがアメリカ大陸に到達して以降でなければ病気がヨーロッパから大々的に持ち込まれるワケがない... という常識で解ける)

個人的に難問と判定している問題は4問だけ。
これは近年では少ない方。

〈〈2025〉11問、〈2024〉6問、〈2023〉3問、〈2022〉4問)

具体的に挙げると

【問題23】知行国主は国司を推挙できる権限を有しているという知識

【問題30】日本社会党が自衛隊に関する方針転換〈1994〉をしたのは村山富市内閣だからPKO協力法制定〈1992〉の背景にはなり得ない

【問題31】社会党が再統一したのは、右派が自民党を結成し(55年体制)憲法改正を目指す時期

【問題33】海軍大臣をワシントン会議に派遣することで国内の大臣事務を原敬が行うことは、軍部大臣の役割を軍人以外が担うということ

逆に簡単な問題は15問もありました。近年では最多。

〈〈2025〉10問、〈2024〉6問、〈2023〉4問、〈2022〉9問)

いずれも基礎的な歴史知識があれば解ける問題、または単純な資料読み取りで解ける問題です。そして、今年度のトピックスとしては、受験生が苦手とする年代整序問題の出題が1問のみであったということ。(〈2025〉6問、〈2024〉5問、〈2023〉6問、〈2022〉3問)

ただ、考えてみると、年代の並べ替えをせずとも、年代を意識しないと解けない問題は多かったです。

【問題1】英仏のアフリカ分割の時期は1800年代、三角貿易は1700年代

【問題3】ガンディーの非暴力・不服従運動は1920年代、塩の行進は1930年代、イタリアのエチオピア侵攻は1935年

【問題6】気候変動に対する関心が高まったのは1980年代以降(〈1992〉地球サミット)

【問題7】 アメリカの排日移民法〈1924〉、関東大震災〈1923〉、五・四運動〈1919〉

【問題8】 阪神淡路大震災〈1995〉、東日本大震災〈2011〉

【問題11】 丸木舟が作られるようになったのは縄文時代から

【問題18】 『伴大納言絵巻』は院政期の文化、巨勢金岡が活躍したのは800年代

【問題19】 『古事記』〈712〉、『風土記』〈713〉、延喜・天曆の治〈902・958〉

【問題20】 和田義盛を侍所の別当に〈1180〉、六波羅探題〈1221〉、『樵談治要』は応仁・文明の乱〈1467-77〉を評している

【問題23】 八条院領が形成された時期 = 鳥羽上皇〈1156〉死去

【問題24】 儒教伝来は古墳時代の王仁〈400s〉や五経博士〈513〉、文治政治になるのは由井正雪の乱きっかけ〈1651〉、

【問題25】 台場は幕末、安政の改革（阿部正弘・江川太郎左衛門）、惣村は室町時代

【問題26】 友禅染は江戸前期、銅版画は江戸後期

【問題30】 村山富市内閣〈1994〉、PKO協力法〈1992〉、湾岸戦争〈1990〉

【問題31】 社会党の右派・左派の合同〈1955〉改憲阻止のため、革新自治体は1960年代

【問題33】 山東出兵〈1927〉

以上のように、解くために年代設定が必要な問題が、単なる年代整序以外に16題もありました。

2025年はそういうのが13題で、年代整序が6題だったから合計19題。

そう考えると、2題差。歴史的事象について、それが、どの時代のいつくらいに位置するのかは、常に意識して学習する必要があります。

ちなみに、受験生が苦手とする社会経済史が13問と激増しましたが（〈2025〉6問、〈2024〉7問、〈2023〉6問、〈2022〉8問）、いずれも平易な問題（漁業など）だったので、平均点を下げなかったと思います。

また出題形式としては、選択肢4文中、正文2つを選ぶ問題が割いたの12題でした。（〈2025〉正文1つ選択問題が最多の10題、〈2024〉正文2つを選ぶ問題が最多の7題）

そして、主として知識で解く問題が最多の17題。次に多かったのが、現文読み取りと知識活用を組み合わせた問題で9題。

この傾向は、2025年と同様です。

2024年までは、史料と知識活用を組み合わせた問題が2番手に付けていましたが、2025年から、史料はほとんど現代語での提示に変わりました。2026年は、地図というか、図を活用した問題が多くて3題出題。

これは例年1題、あるかないか、程度だったのですけどね。

(1・2年生へのアドバイス)

歴史総合は、平易な問題が中心でしたが、2027年は、どうなるか分かりません。今後も、ある程度の世界史的な視野になった歴史の流れは理解しておくべきです。逆に日本史探究は、簡易な問題が多かったですが、出来事や年代についての知識がないと読み取りもできない問題が今年度も多くありました。ただ、その知識も基礎的なものであるため、基本的な歴史用語を、歴史の流れの

生物

〔総評〕

読み取らなければならない文章量が減少し、図や表に示された情報を分析して解答するような考察問題が増加しました。選択肢が4～5個の設問が増加し、選択肢が6個以上の設問は減少しました。正誤の判断に迷う紛らわしい選択肢は少ない印象でした。大問数とマーク数は昨年と同じでした。図や表の数が大幅に増加したために、ページ数は増加しましたが、各ページの空白部分が多くなり、その反面、文章量は減少しました。教科書の各分野から幅広く出題され、知識のみで解答できる問題の割合は減少し、思考・考察問題が増加しました。大問中に複数の分野の設問を含む単元横断型問題は減少しました。また、A・Bで分けた問題がなくなったのは大きな変化です。

(1・2年生へのアドバイス)

生物は、最低限身に付けておくべき基礎内容がとても多いので日頃の授業の復習が大切です。また、単元複合型の問題にも対応できるように、日ごろから他の単元との繋がりを意識して、断片的な知識となってしまうように教科書を何度も読み込むことが重要です。その際に図説を活用して知識を深めると同時に、問題集の基礎問題を解いておくといいでしょう。3年生になると4単位の授業となり進度も加速するので、3年生になって最初から復習しようとしても時間が確保できません。定期テストの解き直しは受験勉強だという気持ちでその都度確実に行って知識を定着させておきましょう。さらに、教科書に設けられている「実験・観察」の部分にも取り組んでおくといいと思います。長文を読解する問題も多いので朝読書にも真剣に取り組み、文章読解に慣れておきましょう。



解説

理科 金親雅史 教諭

情報

解説

〔総評〕

情報科 土屋和子 教諭

第1問の問2は16進法が問われ、早速新仕様のマークシートに合わせた出題となった。問3では中央値 や最頻値などの各統計量の意味について、単に定義を覚えるだけではなく、一段深い理解が求められる問題になっていた。

・第2問Aは情報システム分野から、住基ネット(マイナンバー)を題材とした問題が出題された。Bは画像の合成を題材に、論理演算について問われた。図の数も多く、忍耐強く解いていく必要があったため、ここに時間を取られた受験生も多かったのではないかと。

・第3問はシミュレーションとプログラミングを融合させた出題となった。待ち行列は試作問題でも出題されており、復習していた受験生にとってはとりかかりやすかったかもしれない。ただ、後半では本格的なプログラムの修正が問われ、これは実際にコーディングをした経験がないと苦労したかもしれない。

・第4問は桜の開花予測を題材としたデータ活用の問題で、標準的な難易度。ここはしっかりと得点したい。

(1・2年生へのアドバイス)

着実に点をとるには、基礎学力がしっかりしていないと難しい。

本格的な受験勉強を始める6月までに、情報の教科書をしっかり読んで、情報に関する用語はまとめておくが良い。また授業で使用した問題集も6月までに最低1回は目をとっておく必要がある。

本格的な受験勉強がはじまってからは、問題集1冊はマスターしたい

昨年度は他の教科に勉強時間を取られ、情報の勉強まで手が回らない生徒が多く見受けられた。せめて週一時間でも情報の勉強にあてる時間を確保するよう心掛けて欲しい。

最後に情報は数学的能力より、読解力がある生徒の方が点が取りやすくなっているため、読解力も身に付けて欲しい